

〔年中行事秘抄 十二月〕十九日御佛名始事

閏月例

長曆三年閏十二月十九日乙巳、物忌、今日始佛名、殿上御裝束如恒、但地獄變御屏風、内裏火災夜燒亡、仍以大宋御屏風立之、故實也。

〔雲圖抄〕十二月十九日御佛名事

以地獄變御屏風七帖立七ヶ間也、有網鎮子等、或書云、若無件御屏風之時、用漢書御屏風、

〔枕草子 四〕御佛名のあした、ちごくゑの御屏風取渡して、宮に御らんせさせ奉給ふ、いみぢうゆ、しき事限りなし、是見よかしとおほせらるれど、さらに見侍らじとて、ゆゑ、しさにうへやにかくれふしぬ、

〔榮花物語 三 様々のよろこび〕まはす二年 延の十九日になりぬれば、御佛名とて、地獄ゑの御屏風な

ど、とうで、まつらふも、めとまりあはれなるに、略 下

〔大内裏圖考證別錄 上〕漢書屏風。年中行事畫、内宴圖、草木山形、無人物、是畫傳寫不細密、故如此歟、

襲木黑縁、青地文白菱、裏紫文黑鳥襷、

〔江家次第 七八〕相撲召合裝束

東方御簾西邊立、亘五尺漢書御屏風、南北行西向、件御屏風不及北障子五尺許、近例依無漢書御屏風立、大宋御屏風、以緋網鐵鎮子等固之、下亦同、

同廂第四間以西、六箇間北邊立、亘同御屏風、南向、又第四第六間北邊、御屏風、中央並開往反路、

〔雲圖抄〕正月正朔寅刻四方拜事

立廻御屏風四帖、往古或八帖、先用漢書御屏風、先例

〔北山抄 五〕大嘗會事

勘標并御插頭御屏風等本文、作風俗、舞詠事